



កំពង់ផែស្វយ័តក្រុងព្រះសីហនុ
Port Autonome de Sihanoukville (PAS)

「世界で活躍する土木技術者シリーズ」シンポジウム



PAS 港湾運営アドバイザー 惟住智昭

自己紹介（国際業務関係）

- ▶ 1986年4月
運輸省入省
 - ▶ 2001年4月～2003年3月
国土交通省港湾局建設課国際業務室（JICA研修担当）
 - ▶ 2003年3月～2006年3月
在カンボジア日本大使館 二等書記官（インフラ、草の根案件担当）
 - ▶ 2008年4月～2011年3月
外務省国際協力局国別開発協力課（中東・マグレブ地域経済協力担当）
 - ▶ 2018年4月～2019年3月
国土交通省総合政策局国際政策課（JOIN案件担当）
 - ▶ 2019年4月～2022年5月
国土交通省港湾局産業港湾課国際企画室（海外派遣手続、JICA研修、露中韓等担当）
 - ▶ 2022年6月～
JICA長期専門家（港湾運営アドバイザー）としてカンボジア（PAS）派遣中
- ✓ その他、地方整備局、内閣府（沖縄振興局）、港空研に勤務

二度目のカンボジアの印象

○一度目（2003年から2005年）

- ・一人当たりGDP：362USドル(2003)（世銀）（後発開発途上国）
- ・復興から開発へ（1993年新政権樹立（内戦終結）後10年目）
（イメージ：日本の1956年（終戦後11年目）経済白書「もはや戦後ではない」）
- ・対カンボジアの日本のODAは第1位（日本のプレゼンス大）
- ・知識層、中間層の不足

○今回（2022年から）

- ・一人当たりGDP：1,591USドル(2021)（世銀）（低中所得国）
- ・開発も投資も（内戦終結後30年、安定した政権、高い投資ポテンシャル）
（イメージ：日本の1970年代（高度経済成長期）か1980年代（バブル時代）か）
- ・OECD/DACデータでは日本が対カンボジア支援額1位であるが、. . 高まる某国の存在感を実感
（どのように日本のプレゼンスを維持するか）
- ・経験の蓄積、若い人材の台頭



2005年

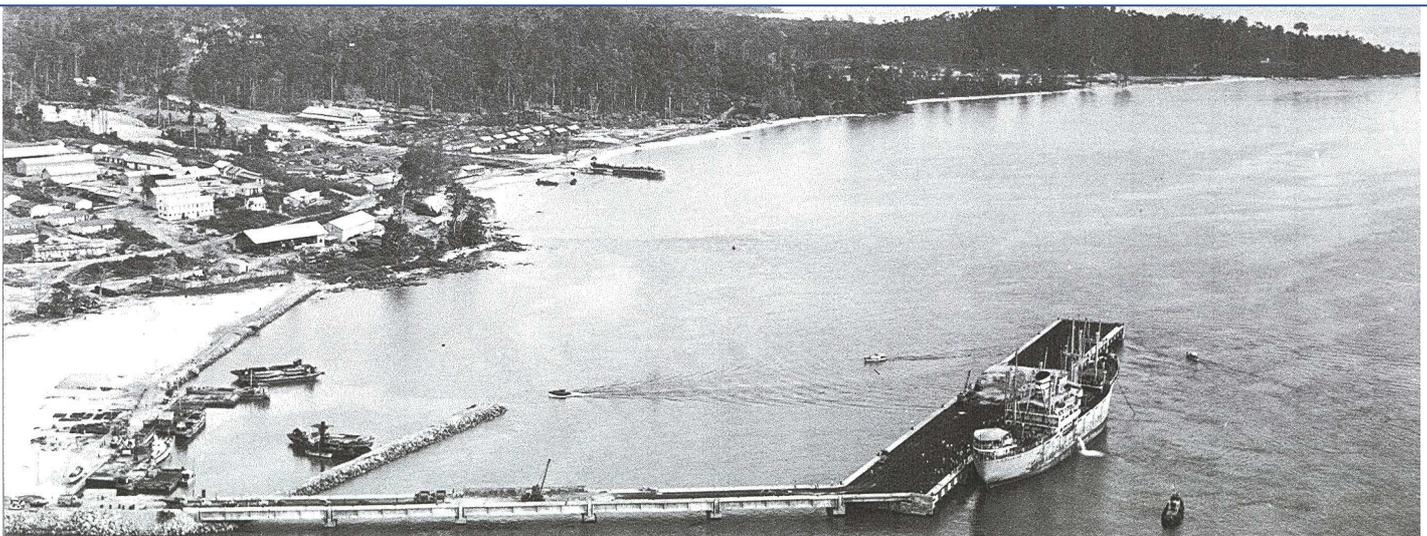


2022年

指導する から 一緒に考える へ

シハヌークビル港の歴史

- ・シハヌークビル港は、1956年にノロドム・シハヌーク王がフランスの支援により建設を開始し、1960年より供用。
- ・日本は1996年からのシハヌークビル港港湾整備計画調査を皮切りに現在まで継続して支援。



シハヌークビル港整備への日本の支援実績



種別	案件名	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
開調	SHV港湾整備計画調査	←→																											
有償	③SHV港緊急リハビリ事業		←→																										
開調	SHV経済回廊地域開発調査			←→																									
有償	④SHV港緊急拡張事業				←→																								
有償	⑥SHV経済特別区開発事業																												
技協	港湾専門家の派遣																												
無償	⑤主要国際港湾保安施設・機材整備計画																												
有償	⑧SHV港多目的ターミナル整備事業																												
開調	海運・港湾セクターマスタープラン調査																												
技協	港湾管理運営能力強化プロジェクト																												
技協	SHV港競争力強化調査プロジェクト																												
技協	SHV港CT経営・技術向上プロジェクト																												
技協	電子海図策定支援プロジェクト																												
海投	シハヌークビル港整備・運営事業																												
有償	SHV港新コンテナターミナル整備事業																												
無償	港湾近代化のための電子情報システム整備計画																												
技協	SHV港CT経営・技術向上プロジェクト (2)																												
技協	SHV港SEZ運営アドバイザー																												
無償	⑩経済社会開発支援 (CFS建設)																												
無償	⑪SHV港船舶航行安全システム整備計画																												
無償	経済社会開発計画 (MHC供与)																												
技協	SHV港CT経営・技術向上プロジェクト (3)																												
有償	SHV港新コンテナターミナル拡張事業																												

・日本はシハヌークビル港に対し、25年以上にわたり約900億円の支援を実施。
 ・日本とカンボジアの支援の象徴となる港。

シハヌークビル港今昔

2005

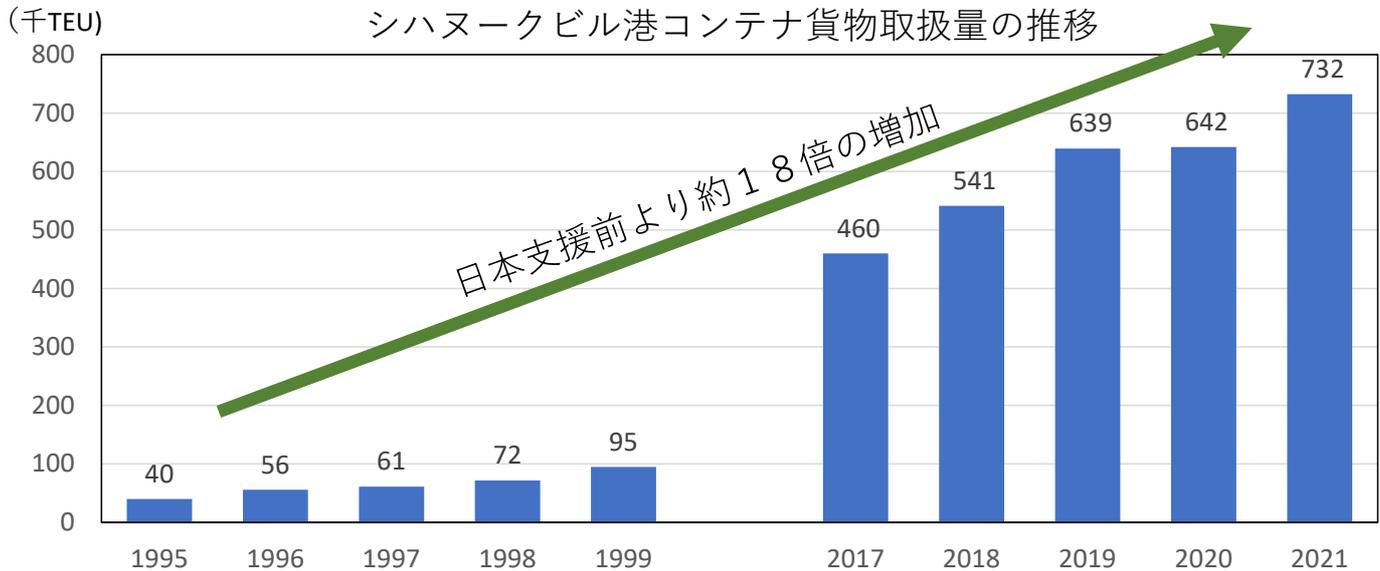


2022



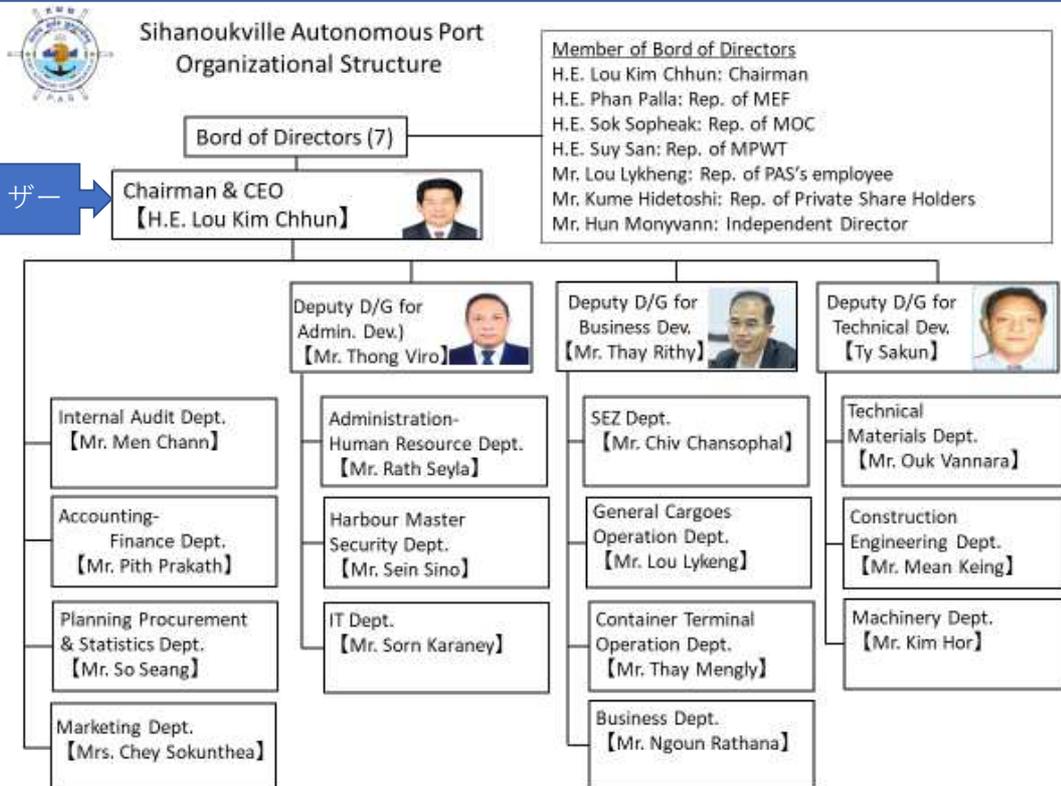
シハヌークビル港への港湾専門家の派遣

- ・シハヌークビル港については、従来、公共事業運輸省に派遣されている運輸交通アドバイザー（現運輸政策アドバイザー）が指導。
- ・2005年、カンボジア政府は、増加するコンテナ貨物に対応するため、港湾専門家の派遣を要請。日本政府は、整備中のコンテナターミナル（円借款）の供用開始を見据え、シハヌークビル港の重要性に鑑み、PASに港湾専門家を派遣することを決定。
- ・2005年から現在まで計9名の専門家を派遣。



派遣先（シハヌークビル港湾公社）について

- ・シハヌークビル港湾公社は、2017年6月に株式上場、株式所有構成は、経済財政省75%、上組13%、阪神国際港湾2.5%、PAS職員2.5%、その他7%。ボードメンバーとして、日本港運協会久米氏が株主代表非執行取締役就任
- ・1,050名の職員と290名の契約職員で構成
- ・JICA専門家は総裁アドバイザーという位置づけ



港湾運営アドバイザー

港湾運営アドバイザーとして派遣されて

○派遣の目的

PASの経営戦略立案能力強化、コンテナターミナルの効率的運営能力向上、新コンテナターミナル運営体制の構築、SEZの運営能力向上に係る各種支援の実施により、シハヌークビル港の競争力が強化されること。

期待されている成果

- 1 PASの港湾開発方針・計画及び経営戦略策定能力が強化される。
- 2 PASの港湾管理・運営が改善する
- 3 シハヌークビル港に関連するJICAの事業が適切に管理される。

加えて

- ・シハヌークビル港は、カンボジア唯一の大水深海洋港として、国の発展の基盤。
- ・本港の貨物取扱量は年々増加しており、新コンテナターミナル整備や港湾の効率的な運営能力の向上などが喫緊の課題であり、日本政府がハード、ソフト両面から質の高い支援を継続している最前線。
- ・また、シハヌークビル港はインド洋と太平洋を結ぶ要衝に位置し、「自由で開かれたインド太平洋」等日本の政策の最前線としても注目。

非常にやりがいのあるポジション

港湾運営アドバイザーの日々の活動

○会議への出席、説明等



○シハヌークビル港の課題について把握、協議



○港湾視察者対応



結び：カンボジアの発展に尽力された日本人土木技術者に感謝を込めて

- ・日本の支援は、カンボジアの紙幣の図案になるなど、カンボジア人に高く評価。
- ・これは、犠牲を払いながらもカンボジアの発展に貢献された多くの先人の功績。
- ・一土木技術者として、先人に恥じないよう、そのバトンをつないでいきたい。

旧1,000リエル紙幣



国道6・7号線改修計画



プロジェクト中にはODA関係者の犠牲も（1997年7月6日殉職）

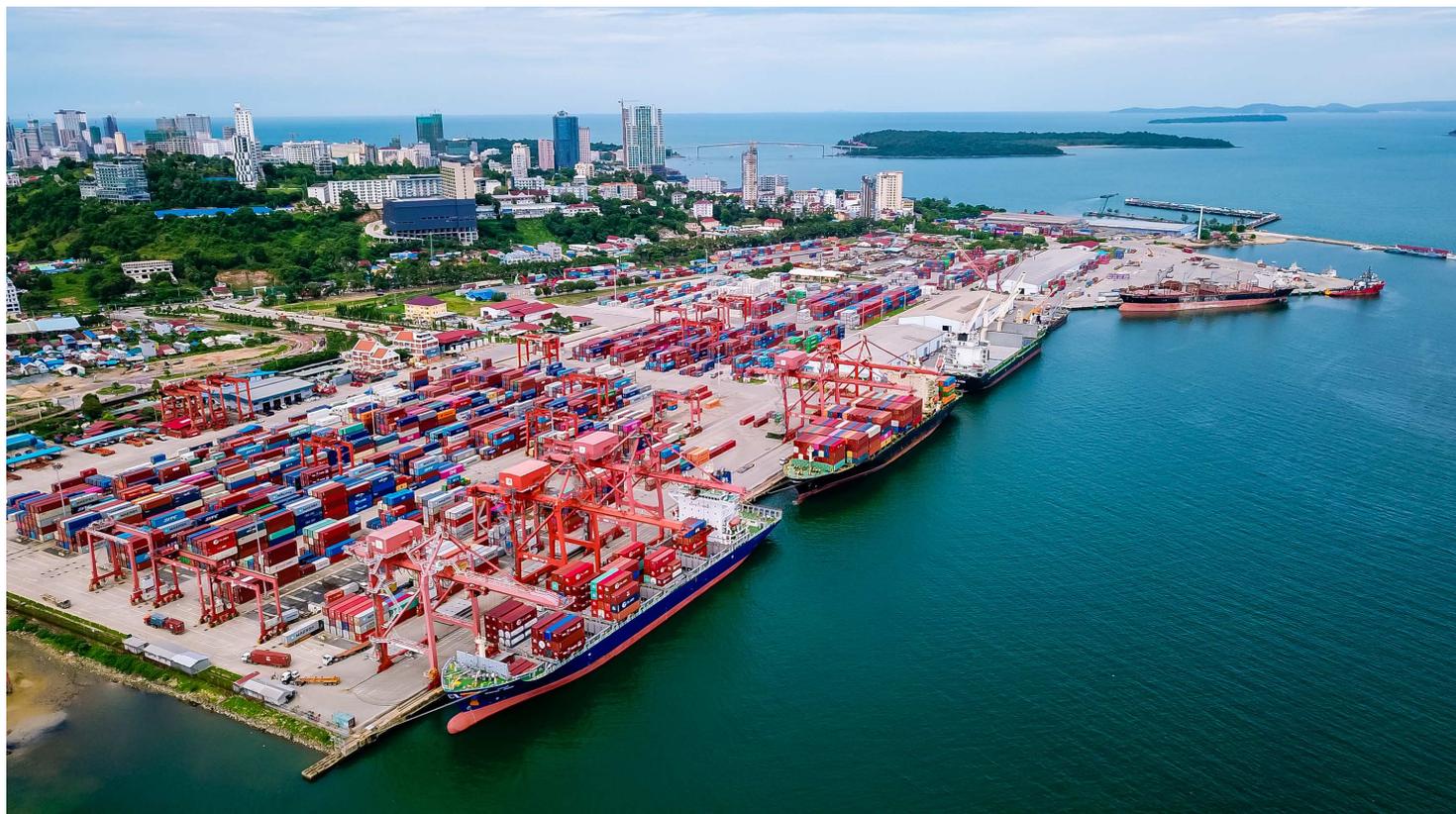


500リエル紙幣



メコン架橋建設計画（きずな橋）
ネアックルン橋梁建設計画（つばさ橋）

ご清聴ありがとうございました



សូមអរគុណ។